

風しん第5期定期予防接種説明書

- この説明書の内容をよく理解した上で、予防接種を受けてください。
- 予防接種を受ける際には「予診票」を正確に記入し、ご自身の情報を正しく医師に伝えた上で、問診及び診察を受けることで、より安全に予防接種を受けることができます。
- ワクチンの必要性や副反応について不明な点がある場合は、予防接種を受ける前に医師にご相談ください。

1. 風しんについて

風しんは風しんウイルスの飛沫感染によって起こる病気で「三日ばしか」とも呼ばれます。潜伏期間は2～3週間で、発疹の出る2～3日前から発疹が出た後5日くらいまでは感染力があるとされています。

主な症状は、発熱、発疹、リンパ節の腫れで、他に咳や鼻汁、眼球結膜の充血、関節痛などの症状が見られます。一般的に予後は良好といわれていますが、まれに合併症として、血小板減少性紫斑病(3,000人に1人)、脳炎(6,000人に1人)を発症することがあります。妊娠初期の女性が感染すると赤ちゃんが白内障、心臓疾患、難聴などを症状とする「先天性風しん症候群」にかかる可能性があります。

2. ワクチンの効果と副反応

ワクチンの接種により約95%の人に免疫が獲得されます。副反応としては、ワクチンの接種直後から数日中に発熱、発疹、じん麻疹、かゆみなどがみられることがあります。全身症状としては、だるさ、発熱、発疹、また局所症状として接種部位に発赤、腫脹、硬結、疼痛などがみられることがあります。非常にまれですが、アナフィラキシー(じん麻疹、呼吸困難、発汗など)、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどを起こすこともあります。

3. 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱のある方(37.5℃以上)
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③過去にワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある方
- ④27日以内に生ワクチンを接種した方、または6日以内に不活化ワクチンを接種した方
- ⑤その他、医師の判断により予防接種を行うことが不適切な状態にある方

4. 予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなくてはならない方

- ①心臓疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患がある方
- ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、発疹、じん麻疹等のアレルギーを疑う症状がみられた方
- ③過去にけいれんを起こしたことがある方
- ④過去に免疫不全の診断がなされている方および近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
- ⑤ワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある方

5. 予防接種後の注意

- ①接種後30分間は、まれに急な副反応が起こることがあります。医師(医療機関)にすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。
- ②接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ③接種後2～3週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ④接種当日は通常の生活をしてかまいませんが、激しい運動や多量の飲酒は避けましょう。
- ⑤接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ⑥接種後、他の予防接種を受ける時は、27日以上の間隔をあけてください。

6. 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく救済を受けることができます。

◆問合わせ先◆

浅口市 健康推進課

☎ 0865-44-7114